



広島市立安佐市民病院広報誌 -第33号-

〒731-0293 広島市安佐北区可部南二丁目 1-1
TEL : 082-815-5211 (代)
<http://www.asa-hosp.city.hiroshima.jp>

名譽院長も
病院ボランティアの
一人です

ま め で がんす
今日も元気ですよ～

私は、平成六年定年退職と共に名譽院長を拝命しました。当時の平岡市長より賞状とメダルを手渡され、今後とも安佐市民病院発展のために協力してほしいと激励されました。

その後は三年間の顧問嘱託を経て病院診療生活は終わりましたが、私は名譽院長拝命時の約束を守って、週一回以上病院に出席し、陰ながら安佐市民病院の発展を願つて、動く広告塔として、患者さんを紹介したり、更には地域住民の病院への意見などを聞く役を担つております。

私はまた、宇和島社会保険病院（在籍九年、病院再建の効により）、中国重慶市立病院（広島市にならつて医療友好協定締結）の二病院の名譽院長も頂戴して

ます私の経歴を述べておきます。私は、平成六年定年退職と共に名譽院長を拝命しました。当時の平岡市長より賞状とメダルを手渡され、今後とも安佐市民病院発展のために協力してほしいと激励されました。

広島市立安佐市民病院 名譽院長
岩森 茂



名譽院長も
病院ボランティアの
一人です

あります。ありがとうございます。現在の私ののぞみは病院増改築が現在地で可能か？ 移転はできないものか？ できないものしたら周辺の土地取得とベッド増の代替策など、病院ブレーンのお手伝い役ができないかと陰の努力を続けております。また、病院を辞め開業した医師群（全てサテライト施設だと思っている）と相協力する場（OB組織）をもつて彼らの求めている病院への意見のまとめ役でもしたいなとさやかな夢を抱いております。

患者のみなさま、私は患者としても院内を廻つております。私の出来ることがあれば何でも協力しますので、今後ともよろしくお願いします。

「健康祭り」開催の延期について

例年5月に開催しています安佐市民病院健康祭りは、本年は会場の都合により秋（10月頃）の開催とさせていただきます。

開催日等の詳細が決定次第、ポスター等でお知らせいたします。多数の皆様のご来場をお待ち申し上げます。



【病院機能評価】

安佐市民病院の理念と基本方針

理念

・愛と誠の精神をもって医療を提供します。

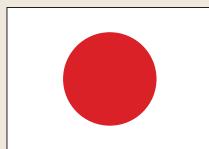
・地域の基幹病院として高度の医療・ケアを行います。

基本方針

1. 患者さまの立場を尊重し、理解と納得にもとづいた医療を行います。
2. 安全な医療と快適な療養環境の提供に努めます。
3. 地域と連携し、地域医療、救急医療、トータルケアの水準の向上に努めます。
4. 最新の医療にとりくみ、医療・医学の進歩に貢献します。
5. より良い医療サービス提供のため、健全な病院運営に努めます。

海外からの留学生の紹介

整形外科部長
藤原 靖



エドリー医師



アンドリー医師



現在整形外科にはインドネシアから2人の留学生が来られておりますので、紹介させて頂きます。

Dr. Edli Warmanは、本年3月から5月まで脊椎外科の研修に来られています。インドネシア陸軍病院の医師ですが、現在脊椎外科専門医となるために研修中です。インドネシアでは専門医取得のためには厳しい研修が必要で、整形外科専門医となるために5年半、脊椎外科専門医となるためにはさらに1年の無給研修が必要です。そして最後の3ヶ月間は海外研修が義務付けられております。

昨秋、私が日本脊椎脊髄病学会のトラベリングフェローとしてインドネシアを訪問させて頂いた折に、インドネシア整形外科学会会長 Dohar Tobing 教授から顕微鏡視下脊椎手術手技を研修させて欲しいとの依頼があり、今回研修に来られる運びとなりました。

奥さんと二人のお子さんをインドネシアに残しての研修ですが、日々鋭意研修されております。

Dr. Muhammad Andry Usmanは、インドネシア・スラウェシ島の Hasanudin University から広島大学大学院に留学中で、主に広島大学で医学博士取得のため膝関節外科の研修中ですが、毎週木曜日当院で小林健二部長の膝関節手術を学ぶために来院されています。インドネシアでは大学で教員となるためには海外の博士号取得が義務付けられているそうです。博士号取得のためには4年間という長期間を要するため、ご家族ともども来日されて広島市内に在住されています。

こうして海外からの留学生を受け入れるにあたって、院長先生、事務長様はじめ多くの病院スタッフの御協力を頂きました。インドネシアは急速に発展しつつあるとは言え、多くの問題を抱えております。整形外科分野でも外傷や感染に対する治療が主体で、顕微鏡視下脊椎手術や人工膝関節置換術などはほとんど普及していないのが現状です。

今回の研修が彼らに、さらにはインドネシアの発展にとって有意義であることを祈っております。

NST 専門薬剤師

私たちが健康を保つためには、栄養バランスの良い食事を摂ることが不可欠です。それは病気になっても同じことが言えます。栄養状態が悪くなると、病気が悪化したり、傷が治りにくかったり、ばい菌に対して抵抗力が落ちてしまいます。つまり、健康を取り戻すためには病気の治療と並行して、しっかりと栄養管理が欠かせないのです。

そこで、当院では平成15年に医師、薬剤師、看護師、管理栄養士、臨床検査技師、言語聴覚士などからなる栄養サポートチーム (Nutrition Support Team; NST) を結成し、栄養状態の悪い患者様に対するチーム医療を実践しています。チームのメンバーはそれぞれの専門性を活かし、口から充分な栄養を取る『食べて治す』というNSTの最終目標にむかって活動を行っています。

その中でNST専門薬剤師は、くすりの専門家として様々な栄養管理に関わっています。例えば、食欲が出ない、飲み込みが難しい、下痢や便秘などの症状がある場合に、くすりによる影響がないか、ある場合には量は適切か、他の種類のくすりに変えられないか、ということを調べたり、点滴で栄養を補給する場合には、栄養素のバランスはよいか、ビタミンやミネラルが不足していないか、他のくすりや食事と影響しあうものはないかなどを確認しています。また、長期間口から栄養を取らないと、腸管の粘膜が薄くなり、腸で豊富に作られるはずの免疫細胞も減ってしまうために抵抗力が落ち、ばい菌が体に侵入しやすくなってしまいます。そのため、点滴だけで行う栄養管理が必要以上に長く続いているか、ということにも目を光らせています。

このように薬剤師も、くすりをとおして『食べて治す』ということに、NSTの一員として貢献しています。



薬剤部 渡辺 篤

安佐市民病院「もの忘れ外来」について 『脳の健康パスポート』を活用した認知症ケア



神経内科部長
山下 拓史



わが国の認知症患者数は年々増加しており2020年には300万人に達する見込みです（厚労省）。齢を重ねるにつれ認知症になりやすくなりますが、85歳より高齢の方では実に4人に1人が認知症と推定されています。認知症の診断法は確実に進歩しており、頭部MRI検査、脳血流SPECT検査、脳PET検査（保険未収載）などを組み合わせることで、より正確な診断ができるようになっています。また正確な診断がつけば、最適の治療を受けることが可能になります。安佐市民病院では、日頃から通院されているかかりつけの開業医の先生と緊密に連携し、認知症の正確な診断を行う「もの忘れ外来」を安佐医師会（安佐南区と安佐北区の医療機関の団体）の先生方とともに開始しました。認知症も**早期診断、早期治療**が重要で、進行してからでは思うような治療効果が期待できません。また初期の「もの忘れ」は薬でよくなることが実証されています。「もの忘れ外来」では、発症初期（発症後3年以内）に正確な診断を行い、最適の治療を早期から始めることを目指します。

「もの忘れ外来」を受診するには？

「もの忘れ外来」は、開業医の先生から安佐市民病院神経内科にご紹介いただくところから始まります。新しく経験したことと記憶にとどめることができない（記録力障害、もの忘れ）、ここはどこで今がいつなのか分からなくなる（見当識障害）、物事の判断を自分一人ではできなくなる（判断力低下）といったいわゆる認知症状がみられる場合には、遠慮なくかかりつけの開業医の先生に頼んで当院の「もの忘れ外来」に紹介してもらって下さい。健康でどこにも通院されておられない方は、風邪をひいたときやインフルエンザの予防接種などで時たま受診することがある、お近くの開業医の先生にお願いして下さい。開業医の先生からご紹介いただきますと、ご本人とご家族のご都合のよい日時に「もの忘れ外来」の受診予約をとらせていただきます。ご家族からもお話を聞かせていただきますので、お手数をおかけしますが、必ず**ご家族と一緒に受診をお願いします**。「もの忘れ外来」には全部で3回くらい外来受診していただき、診察、血液検査、画像検査、認知機能検査を行います。その結果、現時点で考えられる診断とこれからの治療法についてご本人とご家族にご説明し、『脳の健康パスポート』をお渡します。もちろん、ご紹介いただいた開業医の先生には「もの忘れ外来」の結果を詳しくご連絡いたします。

『脳の健康パスポート』を使った包括的認知症ケア

かかりつけの開業医の先生のもとで、いま治療中の病気に加えて認知症の治療が始まります。『脳の健康パスポート』には、かかりつけの先生のページ、専門医療機関のページ、介護保険を利用した支援体制としてケアマネジャー・介護サービス・訪問看護ステーション・地域包括支援センターの担当者名を記入いただくページなどがあります。認知症が進行するといろいろな困った症状が現れる場合がありますが、専門医療機関によるサポート体制については受診時にご説明します。

昨年6月に「もの忘れ外来」を開始しましたが、既に100名を超える方が受診され、『脳の健康パスポート』を手にされています。そして、かかりつけの開業医の先生のもとで認知症の治療も併せて受けておられます。「もの忘れ」が気になる場合には、開業医の先生にまずはご相談ください。



A5サイズ。かかりつけの先生、専門医療機関、介護の支援体制など一目でわかります。

この後、10ページまで認知症ケアに関する内容が続きます。（平成24年2月21日）

お薬手帳の活用 ワンポイントアドバイス!!



「お薬手帳」は日頃どのような薬を服用しているのかを患者さん自身に認識してもらうと同時に、医療機関（調剤薬局も含めて）同士で薬が重複したり相互作用（飲み合わせ）に問題がないかをチェックするためのものです。

お薬手帳の利用に関しては以下の点に気をつけると良いでしょう。

1. お薬手帳は一冊あれば十分です

複数の医療機関にかかっていても手帳は一冊にし、どの医療機関からの薬もその一冊に記載してもらいましょう。

2. 医療機関に受診するときには必ず提出しましょう

手帳は記載してもらうだけでなく、他の医療機関でどのような薬が出ているのかを見てもらい、飲み合わせなどに問題がないのかを必ず確認してもらいましょう。

3. 日頃から携帯しておきましょう

不慮の事故や救急の際にもお薬手帳を見ることによって診断の役に立つことがあります。病気の既往歴や服薬の状況なども自分で記載しておくとよいでしょう。

4. 日常的に服用している市販の薬があれば記載しておきましょう

市販薬を購入するときには薬剤師にお薬手帳を見せて、病院の薬との服用で問題がないかを相談し、市販薬や健康食品についても記載しておくとよいでしょう。

このような記載があると病院での診察の際に大変役に立ちます。

5. 手帳をお求めの際には、日頃お薬をもらっている保険調剤薬局や病院薬局の窓口にお申し出下さい。





可部っ子、花いっぱい大作戦



可部の街をきれいに明るく楽しくするために可部中学校、可部小学校、可部南小学校の3校が協力して「可部っ子、花いっぱい大作戦」を展開しています。1月31日には可部南小学校の皆さんに安佐市民病院にパンジーのプランター4箱を届けて下さいました。そして時々子どもたちが水をやりに来てくれています。

安佐市民病院では子どもたちと一緒にこの可憐な花を大切にし、可部の街が花いっぱい元気で笑顔のあふれる楽しい街になることを願っています。



おしゃせ



かん患者サロン
すずらん
2012年上半期予定表

日程	テーマ	講師
4月19日	おしゃべり会	看護師が出席します
5月17日	乳がんの勉強会	外科部長 村上 茂
6月21日	おしゃべり会(口腔ケア)	歯科衛生士 丸子 恵
7月19日	肝臓がんの勉強会	内科主任部長 辻 恵二
8月16日	おしゃべり会	看護師が出席します
9月20日	がん治療中の心のケア	精神科副部長 日笠 哲

※講師は都合により変更となる場合があります。
※場所は原則「看護者サロン」午後2時～3時開催予定ですが、会場が変更となる可能性もあるため、その都度ご確認ください。
★予約が必要な場合はご連絡ください。
★対象は、当前のがん患者さんとそのご家族の方です。

お問い合わせ先：広島市立安佐市民病院 医療支援センター
がん相談支援室・082)815-5211(内線2289)

がん患者さんのミニサロン

患者サロン「すずらん」では、「栄養」「お薬」「ご家族の悩み」の相談会を毎月(祝日は除きます)サロンで下記のように開催しております。

毎月第1木曜日午後2時～3時

ご家族の相談会 がん相談員ヒソーシャルワーカーが患者さんご家族のお悩みにお答えします。

毎月第2木曜日午後2時～3時

お薬の相談会 がん患者さんのお薬や副作用に関するお悩みに薬剤師があらせます。

毎月第4木曜日午後2時～3時

食事と栄養の相談会 手術後や治療中の食事や栄養のお悩みに栄養士があらせます。

※予約は不要です。お気軽に南館1階患者サロンまでお越しください。

お問い合わせ…安佐市民病院医療支援センター がん相談窓口

(082)815-5211(内線2289)

✿無菌治療室(クリーンルーム)増設のお知らせ✿



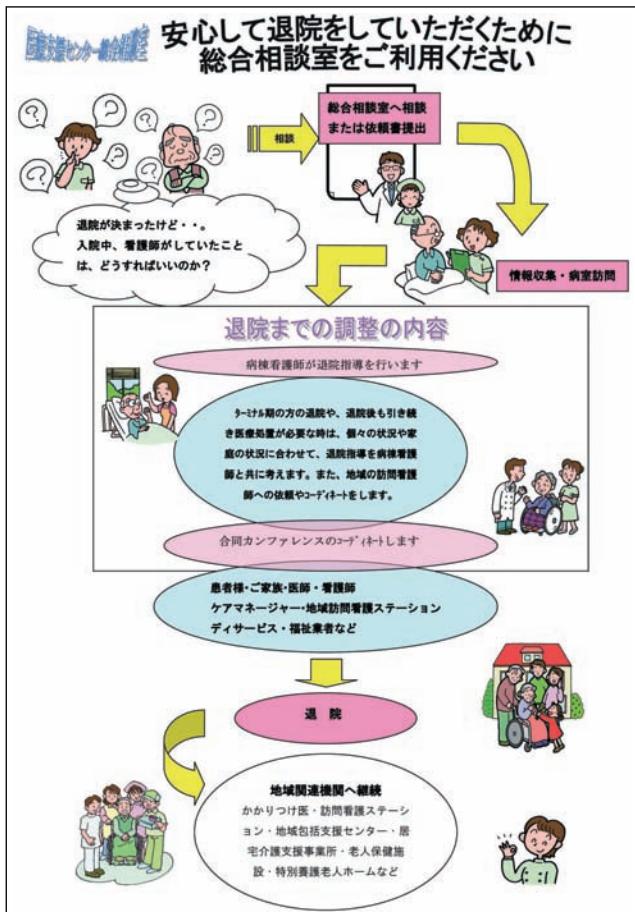
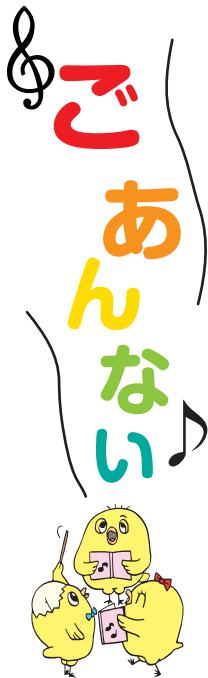
無菌治療室（「クリーンルーム」とも言います）とは、感染症を起こす可能性が非常に高い患者様が入られる病室で、徹底した空気清浄と無菌水の供給をする部屋です。対象となる患者様は、主に血液疾患や化学療法等によって免疫力が顕著に低下している方です。面会制限や生もの禁止等の一定の制限はありますが、室内では、生活が完結出来るように必要なものは整備されています。

当院は、がん拠点病院として外来化学療法室の充実をはかり、先端の治療を実施していますが、化学療法のお薬や患者様の状況によって、入院して治療を実施する場合もあります。現在、当院には北6病棟に

無菌治療室が2床ありますが、常時入院されている状況で、必要に応じて個室に簡易型の空気清浄機を設置し対応してきました。しかし、それでは空気清浄に限界もあります。そこで、今年度からさらに充実させるため、同じく北6病棟に1室増設することになり、2月末に完成いたしました。

北6病棟では、患者様により安心して治療を受けて頂くことが出来るように、専門的な知識を持った感染対策認定看護師と化学療法認定看護師共に、一層努力していくたいと思います。





ジェネリック薬品使用の推進について

ジェネリック薬品についてはテレビ、新聞でも頻繁に紹介されており、既にご存じの方も多いものと思います。当院では院内薬事委員会での審議の結果、注射用抗癌剤、注射用抗生物質製剤、造影剤などにつきましては全国の大学病院、癌センターなどの採用状況なども参考にして、信頼のおける後発医薬品を既に使用させていただいております。今後も先発品と同等もしくはそれ以上の安全性、有効性、有用性が確認された後発医薬品に関しては積極的に採用していくことにしており、漸次見直しをしているところです。

一方、保険薬局調剤の際にはジェネリック医薬品への変更が容易になるように処方箋の様式が変更になります。ジェネリック医薬品の使用をご希望の方はどうぞお申し出下さい。

ジェネリック医薬品使用の推進にご協力をお願いいたします。

「皆様の声」にご投書いただく際のお願い

いつも貴重なご意見を「皆様の声」にお寄せいただきありがとうございます。

「皆様の声」の投書用紙が変更になっております。変更内容は病院長名と診療科名が増えていることです。

旧来の投書用紙をお持ちの方は新規の用紙ご使用への変更を宜しくお願ひいたします。

皆さまの声



昨年12月19日より入院し、お正月も病院で迎えました。いつも温まるスタッフの皆様の配りに本当に感謝しております。入院前の説明も丁寧で、遠方からでも来院して良いことに思いました。スタッフの皆様にいつも優しく声を掛けているのに、おせら料理や、お誕生日にはケーキや写真まで撮っていました。入り入院生活を予想しておりましたが、皆様に親切に、大切にしているだけ、全く寂しさを感じる事はありません。食事に添えてあるカードも大切にして、家に持つて帰ります。ありがとうございます。

お褒めの言葉ありがとうございました。

北4病棟では、看護部目標にある患者様に信頼される安全で、安心な看護を提供するよう、又接遇に関する親切・丁寧な対応を日々努力しております。今後も急性期から回復期に向かわれ不安を抱えられた患者様に寄り添い共につらい時期を乗り越えられるよう惜しみない看護・支援に努力していきたいと思います。(北4病棟)

栄養室では、日頃より患者様に喜ばれる食事作りを目指しています。

【行事食(イベントメニュー)】栄養室では患者様に快適な入院生活を送っていただくために、食事サービスにも工夫をしています。

年間30数回(一月に2回程度)の季節の行事食(お花見、こどもの日、母の日、父の日、七夕、敬老の日、秋祭り、もみじ狩り、クリスマス、大晦日、正月、ひな祭りなど)を実施しています。この行事食は、行事の由来のコメントや患者様へのメッセージのカードを添えてその行事にふさわしい献立を準備して提供しています。

また、誕生日にはメッセージカードを添えてケーキをお出ししています。(栄養室)